

令和7年度 正解・解答例（出題意図等）

国語

「国語」の出題意図

中等教育段階までに身に付けてきた、国語を適切に表現し的確に理解する能力を評価する。また、思考力、想像力、言語感覚、言語文化に対する関心についても、評価の範囲とする。

「現代文」においては、人間の生き方、自然と人間のつながり、社会と人間のつながり、芸術・文学、文化・文明、言語などに関する文章を取り上げ、筆者の独自の考えを読み取り、科学的、論理的に思考し、表現する力を問う。

古典（「古文」「漢文」）においては、古典の本質的な価値や古典享受の現代的意義について考えるのに適した文章を取り上げ、古人のものの見方・考え方を読み取ることで、作品を支えている時代・社会・文化などと関連づけて考えること、古典特有の構成・展開、文語のきまり、訓読のきまり、ならびに語句の意味・用法などを通して理解すること、を評価の観点とする。

なお、解答の文章については、以下の点を評価する。

- ・ 問題文の内容を叙述に即して正確に読み取り、理解したことを、それぞれの設問の意図に沿って表現しているか。
- ・ 指示された字数で設問の意図に沿って文中の語句を使い、的確・簡潔にまとめているか。
- ・ 「主語―述語」の呼応した文になっているか。
- ・ 接続表現の使い方は適切か。
- ・ 誤字・脱字がないか、など。

一 現代文

問題文は、共感の諸相や乳幼児から大人までの成長過程における共感の変容などについて論じている。問題文では、キーワードの理解や筆者による論理の展開を読み取ることが求められる。

問一 文脈上の意味を理解した上で、その意味に合った適切な漢字を正確に書くことができるかどうかを問う。

問二 問題文の中心的概念である「情動的共感」と「認知的共感」について、両者の共通点と相違点を読み取り、本文に即してわかりやすく説明できるかどうかを問う。

問三 そもそもなぜ共感が生じるのかについて、「想像」「推論」「経験」をキーワードとする筆者の考えを読み取り、本文に即してわかりやすく説明できるかどうかを問う。

問四 乳幼児から大人への人間の成長と共感との関係について、「自己了解」の力がどのように形成されるかにも触れながら論じている筆者の考えを読み取り、わかりやすく説明できるかどうかを問う。

二 古文

平安時代の仮名日記である『紫式部日記』の一節を題材にして、古文の基本的な読解力を問う。

問一 傍線部に含まれる重要語句の意味や用法について正確に理解し、文脈に合わせて適切に現代語訳できるかどうかを問う。

問二 本文の文脈に即して紫式部がどのような女房を苦手としたのかを把握した上で、そうした人々に対しどう対処したのかを適切に現代語訳できるかどうかを問う。

問三 本文の文脈を正確に把握した上で、紫式部が指示語「これ」で指した内容を適切に表現できるかどうかを問う。

問四 波線部を含む会話文の内容を踏まえて、女房たちの持つ紫式部に対する印象が実際に会う前後でどのように変化したのかを制限字数内で適切に説明できるかどうかを問う。

三 漢文

大槻磐溪『近古史談』中の文章を題材にして、漢文の基本的な知識及び読解力を問う。織田信長が弓の名手と評判の家来「某」に対し、どのように評価したのかについて、その変化を正確に読み取れるかどうかに着眼して出題した。

問一 漢文に用いられる基本的な語句について正しく理解できているかどうかを問う。

問二 織田信長の発言内容を文脈に沿って正確に把握し、適切な表現を用いて現代語訳できるかどうかを問う。

問三 漢文書き下しに必要な基本的事項及び漢文の慣用表現について理解できているかどうかを問う。

問四 直前の「某」の行動とそれに対する暴徒の反応を正確に読み取った上で、指示語の内容を正しく理解できているかどうかを問う。

問五 織田信長の「某」に対する評価を正確に理解した上で、傍線部のことわざが表す具体的な内容を、適切な表現を用いて制限字数内で説明できるかどうかを問う。